

あやめ池学園南九条の会



民間人が犠牲に

自衛隊がインド洋でアメリカの軍艦などに、給油活動を行っています。そして、自衛官から給油を受けた米軍艦船の戦闘機によってアフガニスタンへの爆撃が行われ、イラク戦争に参加したことも明らかになっています。アフガンでは、米軍などの空爆でたくさん民間人が殺され6年間で数千人に達していると考えられます。

戦争でテロはなくなる

アメリカは、テロとのたたかいを声高に主張していますが、アフガン戦争、イラク戦争で憎しみを増幅させ一気にテロを世界に広げ、アフガンやイラクはいまや泥沼の状況です。

アフガンで衣料や水源確保の支援を続ける中村哲医師は、「殺しながら助けるなんて、そんな援助があるか」と語っています。

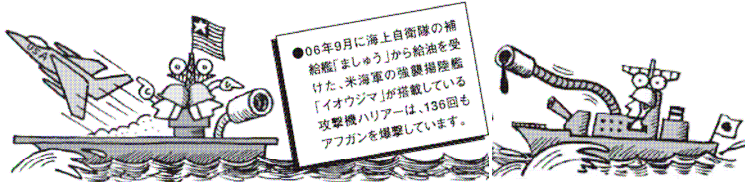
日本は憲法に立つて、教育や医療、農業や産業の支援などでこそ役割を發揮すべきではないでしょうか。

戦争の片棒担ぎはやめ、自衛隊は直ちにインド洋から撤退すべきであり、新テロ特措法は廃案にすべきです。

憲法9条を守るから、生かす運動へ！

この三年半ほどのあいだに、日本は悪くなったけど、いいほうにも変わったと私は思います。それはかつてないほど、自覚した市民が増えて、孤立したバラバラではなく、憲法、とくに9条を守ろうと思いを一つにして行動し始めていることです。憲法9条で世直しの市民連合をやっていきたい。アメリカやその他の国々と軍事同盟ではなく平和条約を結ぶなど、さまざまな目的があります。最近、ひしひしと感じるのは、病氣もできない、安心して年をとることもできない、無残な医療費の縮小と医療や介護などの保険料の値上げなど、生活に対する圧迫です。こういう生活でしぼりとられているものが、大資本の減税にまわされている。もう一つは日本の防衛費が非常に大きいこと、米軍にたいする「思いやり予算」もあります。赤字国債をいっぱい買っているが、売らなくてもアメリカが許さない。その中で、「私の内閣で憲法を変えます」といっていた安倍内閣が参院選で負けた。いまの日本の政治に反対ですと言わなければならない人々の思いのあらわれです。亡くなった小田実さんは、小さな人間が参加しなければ、政治は変わらないといった。私たちは孤立した一人ではない。憲法9条で世の中をよくしようという人たちがいっぱいいることに希望を持って生きていきましょう。

澤地 久枝 (小説家) — 第2回全国交流集会の挨拶より —



2007年、「九条の会」は、地域・分野の会が前回の交流集会時から、小学校区単位や職場など、より生活に密着する場に広がり、1500余増えて全国で合計6734に達しました。

あやめ池学園南九条の会でも、全戸チラシ4回配布、ニュースを5回発行、映画「日本の青空」の学園前ホールでの上映協力、地域での「九条の会」ポスター掲示、駅頭での署名宣伝行動、代表世話人会14回開催などにとりくみました。

ひきつづき、ミニ集会などより小さな集まりの単位で活動を広げていきます。

「会」では、呼びかけ(裏面)への賛同、ポスターミニステッカー掲示、などに取り組んでいます。ご協力いただける方は、是非ご連絡を！

発行責任者 吉川好胤 あやめ池南1丁目3-32 08.19 no.7
http://9jo.e-nara.info mail ayameike9jo@hotmail.com fax 0742-44-0416